科目名	経営情報論Ⅰ　　Information System in Management Ⅰ						
科目担当者	本村 信一　　MOTOMURA Shinichi						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　専門科目］					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	本科目の講義内容は、はじめに経営情報論の内容について概観し、古典的な経営情報に関する事柄から現在の情報技術と経営の関わりに至るまでを分析・考察するものとなっている。経営情報論Ⅰでは、経営学の切り口と情報工学の切り口をハイブリッドに扱い、今後のビジネスにおいて必須となる専門知識も修得できるような内容で進めていく。そのため、講義では現在の企業を支える情報システムが、どのようにして生まれてきたのかを知り、情報技術が企業経営にもたらす様々な変化や影響などを体系的に学び、情報技術の立場から企業経営のあり方を探求できる力を身に着けることが目的である。						
授業の到達目標	① 情報技術の発展が企業の経営活動を変容させ、コンピュータやインターネットなどがビジネスの競争に多大な影響を及ぼしていることが理解でき、今日のAI（人工知能）やxR（仮想現実・拡張現実）、DX（デジタルトランスフォーメーション）などが企業経営と密接な関わりを持っていることを説明できる。 ② 最新の情報技術が様々な業界や企業経営に大きな影響を与えていることについて、講義内容を理解し、経営情報や経営情報システムに関する文献・記事等を検索・調査でき、自分の考えを整理して報告することができる。						

授業計画・内容		
	1	ガイダンス
	2	経営情報論とは
	3	経営情報システムの発展の歴史１（コンピュータ利用）
	4	経営情報システムの発展の歴史２（オンラインシステムの進歩）
	5	経営戦略論の発展
	6	流通と情報システム
	7	製造業と情報システム
	8	経営資源としての情報システム
	9	インターネットの果たす役割
	10	モバイル端末の果たす役割
	11	経営情報におけるイノベーション
	12	プラットフォームとコンテンツビジネス
	13	現在の経営情報に関わる技術（情報検索・SNS・ユーザ参加）
	14	現在の経営情報に関わる問題点とは
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	次回の授業範囲を予習し、概要等について理解しておくこと。（毎週2時間程度）
授業外学修 (事後学修)	毎時の授業で学習した専門用語等について、復習し理解すること。（毎週2時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験	60%	①
	ミニテスト（授業終了前に毎回課す）	20%	①
	レポート	20%	②

成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合
教科書	生稲史彦ほか『コア・テキスト　経営情報論』（新世社）
参考文献	
その他	本講義は経営情報論Ⅱとリンクしており、Ⅱでは主に情報システムを扱う。